

生徒・卒業生、保護者、ひと塾、相談者、関係者各位

むさしの学園&むさしの高等学院からのお便り

NPO法人 フリースクール **むさしの学園**
埼玉県指定技能連携校 **むさしの高等学院**
代表理事 望月 泰宏【携帯：090-1554-1755】

暑かったり、急に秋めいたり、風邪をひきやすい今日この頃です。体調管理に気を付けましょう！

11月の親サロン(10月の親サロンはお休みです)

平成30年11月の親サロンを下記のように行います。一人でも多くのご参加をお待ちしております。むさしの学園・むさしの高等学院関係者以外のご参加も大歓迎です。

日時 11月11日(日) 午後2時30分～5時

会場 新座ほっとプラザ(会議室2)

(志木駅下車、改札口を出て、左に進むと直通で入れます)

お知らせ

① バスケットボール大会・・・汗だく！！

* 九月十二日水曜日。学校から十五分程の志木市民体育館でバスケットをしました。志木市民体育館の予約は大変で、二か月前からネット予約をする必要がありました。このネット予約だけでなく企画の準備は学院・学園の職員の方々に何もかもしてもらいました。ありがとうございました。

そのような手助けのお陰で無事、バスケットをする事が出来ました。皆、楽しかったと言っていたので企画としては成功と言えると思います。(企画者)

* 実は企画者の生徒さんは場所探し他、バスケットのルールまで調べてくれていた…素晴らしい！

皆これといってバスケットの経験なし。手探り状態でした。まずゴールが見当たらない…。

市民会館の職員の方に鍵を開けてもらい、皆で重たいゴールマシンと格闘するけど動かない。職員の方は何をしてもなく「中学生でもできるよ」と怒っている。中学生時代が一瞬でフラッシュバック…。誰もが中学に行けて、バスケットなどができたわけではない。人には人の事情がある。

相手の事情を思いやる想像力のない大人にはなりたくないですね。

メンバーの皆が心配でしたが、大人な対応。すごいな…でも「大人な対応」「大人の事情」という今子どもたちも使う言葉…ぼくら大人の都合に青少年をつきあわせすぎていないか。そんな反省も。

別の職員の方が来てゴール完成。30分…いい汗をかき、いい社会科見学になったかもしれないと思いました。

バスケットは少人数、あまり本格的な試合はしませんでした。思い思いに楽しみました。それでもすごい運動量のスポーツですね～これ。水分補給も忘れずに。皆でワイワイやると楽しい！中学では死にかけたけど、生きてるとこんな日もくるのですね。(同行職員)

② 9月9日（日）、親サロン

当方の手違いで、9月2日にお出でになった方々、申し訳ありませんでした。心よりお詫び申し上げます。今後このようなことが無いように細心の注意を心がけますので、お許しください。

9月9日の親サロンへの参加が少ないのでは？内心ビクビクしていましたが、初めてご参加されたお父さん、お母さんを含め10名以上のご参加者があり、ほっとしました。

当日、親サロンの皆様から望月の誕生日へのお祝い（喜寿）のメッセージを頂き、ありがとうございました。皆様の心温まるお言葉に勇気づけられました。少しでも長く現場で皆様のお手伝いをしたいと思いました。

～9月親サロンで感じたこと～

一般的な話として読んでほしいのですが、子どもに何か課題が起きた時（例えば、学校に行きたくなくなった）、お母さんは毎日子どもと接していますので、子どもの現状に目を向け、悩み、心配します。そして、お母さんはどうしても子どもの悪い所に意識が集まり、苛立ちます。その苛立ちを誰かに話したいのですが周りにはお父さんしかいません。だから、お父さんが仕事から帰ってくるとその苛立ちをぶつけます。子どもの良い所ではなく、自分を苛立たせる悪い所を伝えるのが常です。ここでお父さんの対応は極端に分けると「なるべく聞きたくない、お前に任せるよ」と「そうか！何とかしないと大変だな」の二つあります。望月の今までの経験上から言いますと、どちらもよい結果を得ません。前者は夫婦仲を悪くさせ、子どもの課題に対して同じ方向を向いた話し合いができません。後者はお母さんから得た情報で子どもに向かうので、ある意味で想像を膨らませ、お子さんの悪い部分を過大に考えて対応し、課題を益々深刻化させます。両方とも、子どもが心の奥底に抱えている、私たち大人が見えない課題について理解を示そうとしていないのです。子ども自体もなぜ自分は学校へ行けないのか等々を分かっていないと思います。ましてや親を含め当事者以外の人たちが分かるはずはないのです。

では、どうしたらいいのか？世の評論家は色々と言いますが、綺麗ごとばかりです。当事者以外の方が課題を解決しようとする事自体が間違っているのです。風邪で熱が出た時、熱さましの薬を飲んで、熱を下げるのとは違います。まずは自分の子どもの今の状態、悩みを丸ごと認める、そして子どもは子ども自身の力で進化していくことを信じる以外にないのです。そのためには、お父さん、お母さん、子どもは第三者の力を借りる必要があります。子どもにとっては自分がナチュラルに呼吸できる居場所を探す必要があります。また、ご両親には気兼ねなく辛さを訴えることができる場所が必要です。

長い経験の末、望月はその必要性を重要視し、親サロン、フリースクール、高等学院を創設しました。9月の親サロンで、あるお母さんが「三人が別の宇宙で生きている、三つ宇宙で各自がそれぞれ独自の生き方をしている、そう考えると気楽になりました。同時に子どもたちも生き生きと進化していききました」とお話しされていました。

そのお母さんは何年も親サロンに通い、辛さを訴え、泣き、他の参加者の意見に耳を傾け、自らと必死に闘い、進化し、今の状態になったのだと思います。

「むさしの高等学院」は平成30年度編入・転入生・10月生・平成31年度新入生を募集中です

詳細は、「むさしの高等学院（電話：048-478-0006）」にお問い合わせください。

お時間があるとき「むさしの高等学院」で学園・学院のHPを検索してください



MGリーグ開催!



にわか雨が地面をたたけば、足元は体育に向かない。

…それなら、屋内で体を動かせばいいじゃない。

夏の始まりの頃、今年の秋雨はやっかいだと見越した企画生徒の先見の明は、
ふた月後の9月5日、説得力を持つに至りました。

広い床板、高い屋根、壁から跳ね返る靴音と煌々とした強い照明の中、

ボール一つ、みんなでやりとりするコミュニケーションは、普段とはまた違った語らいただいたことでしょう。

また、今回の企画は、今後の活動に色んな可能性をもたらしてくれました。(職員)